

拳ノ川小学校

「確かな学力を備え、豊かな心を持ち、体力に富み、主体的に活動する拳の子」の育成

校長 上田 壮

◆はじめに

本校は、本年度3名の入学児童を迎え、全校児童16名で教育活動をスタートさせました。本校は地域との結びつきが強く、低学年の生活科では作物を育てる活動をしています。地域や保護者の方が畑作り、作物の世話を積極的にお手伝いくださったり、中学年では、

土手カボチャを地域の方の協力のもと育てる活動を行い、さらに高学年では、若山楮の学習を年間通して行うなど、地域の方にいつも温かく見守られながら日々健やかにすくすくと育っています。



◆学校教育目標

「確かな学力を備え、豊かな心を持ち、体力に富み、主体的に活動する拳の子」を育てることが本校の学校目標です。

すべての教職員が、指導力、想像力、創造力、組織力を発揮し、チーム学校として「知」「徳」「体」のバランスのとれた質の高い教育を実践し、保護者や地域に愛され、信頼される学校づくりをめざしたいと考えています。

◆ふるさと・キャリア教育の充実

町の進める「ふるさと・キャリア教育」の充実に向けて、本校でも今年15年目を迎えるコミュニティ・スクールとリンクさせながら取組を行っています。「地域の宝(子ども)をみんな(学校・家庭・地域)で育てる視点で、課題を共有し課題解決のためにみんな(学校・家庭・地域)で取り組んでいく」を目標に、①学校をより地域・家庭に開く②地域の教育力と人材の活用③地域住民・保護者の教育活動への参画④豊かな教育活動の創造⑤子どもたちとのふれあ

いやかわりあい⑥二者連働と三者連働の6点を指標としてさまざまな活動に取り組んでいます。

主な活動として、「学び・文化コミュニティ」は、若山楮学習と紙漉き体験、読み聞かせボランティアの実施、「健康・福祉コミュニティ」は芋栽培、三世代ふれあい健診のサポート、高齢者との交流、収穫祭、「自然・環境コミュニティ」では土手カボチャの栽培、山の学習、山芋掘りなど、地域に密着した拳ノ川小ならではのユニークな活動が魅力だと思っています。



また、一昨年度より、高知大学地域協働学部の学生が「地域活性化」を研究テーマとして、佐賀北部を中心に活動を行っており、本

校でも「水曜プロジェクト」として子どもたちと交流を図っています。いずれにせよ、子どもたちにはこの恵まれた環境への感謝を忘れることなく、わがふるさとを誇れる、そんな大人になつてほしいというのが教職員一同の願いです。

◆確かな学力をめざして

4月に全国学力学習状況調査、標準学力調査が行われた結果が返ってきました。2つとも全国値、西部管内平均を下回る厳しい結果となりましたが、研究主任を中心に本校児童の強み・弱みを分析、今後の取組の方向性を共有しました。

本年度、研究テーマを「主体的・協働的に学ぶ子どもを育てる」聴き、考え、表現する複式の授業を通して」とし、年7回の授業研における講師招聘、授業スタンダードの確立とUD・生徒指導の3機能の視点に立った授業構成の工夫、ノート指導、綴り方集会の実施、自主学習の質の向上、読書指導、学習環境の整備など、少人数の良さを活かしながら課題解決に向けて取組を進めていきます。

◆おわりに

全校児童16名を中心として本年度は9名の教職員スタッフが一枚岩となって教育活動に取り組んでいます。こころやさしく、ふるさとをほこれ、しゅたい的に活動でき、のうりよくを發揮し、からだをきたえを大切に「こぶしのかわ」の子どもたちをめざして今後も努力して参りたいと思っています。



南郷小学校

「なんざい丸」出航!

校長 坂本 恭美子

◆「いつも笑顔で元氣です」

学校教育目標は「いつも笑顔で元氣です」。児童・教職員だけでなく、家庭や地域にも親しまれる目標になればと願い昨年度から設定しています。

4月、11名(男子6名、女子5名)の新生と2名の転入生を迎えて、児童数48名(男子27名、女子21名)でスタートしました。児童数の減少が問われる昨今、昨年度より「増」という現象は嬉しい限りです。48名すべての児童が、いつも笑顔で元氣でいられる教育活動をどのように推進していくのか、教職員間で確認し取り組んでいることを紹介します。

◆豊かな教育に優れた指導力十環境整備

新学習指導要領において、各教科の目標・内容を①「知識及び技能」の習得②「思考力、判断力、表現力等」の育成③「学びに向かう力・人間性」の涵養と示されて

います。そのためには、児童が課題に主体的に向き合い、自己・他者との対話を通して、さらに深い学びへと向かう授業の質の転換が求められています。

本校では昨年度から継続して、教育研究のテーマを「学び合う子どもを育てる授業づくり」言語活動を大切にして「とし研究を進めています」。

◆「たろ」のよう授業

先生ばかりが話して子どもはただじっと聞くだけ。先生の指示を待つてじやないと動き出せない。そんな授業からの脱却です。



学びの主体は児童です。「発表したい」、「考えたい」、「もつと調べたい」、「友だちの考えを聞きたい」、「わかりたい」、「学びたい」、そんな子どもの声・姿が見られる授業。児童が「受動から能動へ」動き出す瞬間を大切にしています。

◆チーム教育

学級担任が、すべての教

科を受け持つのではなく、理科や体育科・音楽科(一部社会科)などは学級担任外の教員が指導しています(中学校のような一部教科担任制)。また、異学年合同学習も実施し複数の教員で指導できる体制を整えています。「全校児童を全教職員で育てる」が合言葉です。

◆環境が育てる

豊かな教育に必要な要素の1つに環境整備があります。

毎朝元気に登校してくる子どもたちを、掃除が行き届いた気持ちの良い学校で迎えたいと思います。また教室や廊下の掲示物も児童の活動が見えるものにしようと心掛けています

◆「自立・貢献」

子どもが主人公の学校へ

学校行事の一番の目的は「子どもが動く・子どもが楽しむ・子どもが伸びる」ことです。「自分たちの学校

は自分たちで良くしたい」と、そんな気持ちを持ってほしいと願い、今年度から「児童総会」に取り組んでいます。今後、運動会や委員会活動などで児童がもっと主役で動くよう児童会代表

と協議を重ねていきます。



「カンカン火曜日」のご協力ありがとうございます。

ふるさと・キャリア教育

この黒潮町に育ちゆく子どもたちが、町の産業・文化・自然・歴史を



学ばせて、ふるさとを誇りに思い、社会の一員

としての帰属意識をもち、貢献できる人へと育つことをめざしふるさと・キャリア教育に取り組んでいます。

重点教材として「漬物・干し大根づくり」、「砂浜美術館・綿花栽培」、「ラッキョウ栽培」、「クジライス、米作りから販売まで」



9月6日(金)には高知市のひろめ市場での販売が復活です。ふるさと学習はほかにも、

「太刀踊り(運動会や祭り披露)」、地域の福祉施設との交流などがあります。地域学習を通して「地域を誇りに思い、地域を愛する子ども」を育てていきます。

これらの学習の総まとめ「ふるさと自慢大会」は南郷小ふれあい参観日として、令和2年2月22日(土)に開催します。学びを表現・伝える場です。鍛えられた児童のプレゼンテーション力に注目です。

ぜひ、南郷小学校へおいでください。

◆地域とともに

学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たし連携してこそ児童はより豊かに・健やかに育ちます。本校の「強み」である地域力を学校運営に反映させ、「高知県交通安全指定事業(2年目)」、「人権教育推進事業(1年目)」に取り組みます。また、コミュニティ・スクールとしても歩み始めました。

学校の情報はホームページで随時更新します。

